



CAREER DESIGN CONFERENCE 2024



Pick up

「学生が選ぶキャリアデザインプログラムアワード」で
「地方創生賞」受賞!

本学の建築・設備工学科のデザイン
集団「ASURA」が、学生の社会的・職
業的自立に貢献したインターンシップ
やキャリア形成支援に係る取り組みを

表彰する「学生が選ぶキャリアデザ
インプログラムアワード」において、1,013
法人、1,115プログラムの中から、「地方
創生賞」受賞の快挙を達成しました。



私たちの学び場

久留米工業大学グループ校の
施設や設備をご紹介します。



久留米工業大学に 建築構造実験システムを導入!

建築・設備工学科では、構造・材料の専門知識
を習得させるとともに、構造・材料に関する実験
を取り入れた教育の充実を図っています。そこで、
建築構造実験システムを導入することになりまし
た。本システムは大地震時の建築構造物の損傷
状態の再現と、地震時における構造物の挙動の
把握が可能な装置です。このような実験システム
を設置している大学、研究機関は九州では数少
なく、建築構造技術者を目指す学生の教育環境
の向上だけでなく、建築構造の研究において企
業や他大学からも注目を集めています。



学校法人久留米工業大学 (法人本部)

〒830-0052 福岡県久留米市上津町2228-66 TEL 0942-22-1234 FAX 0942-22-1235 URL <https://kougyoudaigaku.jp/>



久留米工業大学

〒830-0052 福岡県久留米市上津町2228-66
TEL 0942-22-2345 FAX 0942-21-8770
URL <https://www.kurume-it.ac.jp/>



祐誠高等学校

〒830-0052 福岡県久留米市上津町2192
TEL 0942-22-1238 FAX 0942-22-1239
URL <https://yusei.ed.jp/>



久留米自動車工科大学校

〒834-0115 福岡県八女郡広川町大字新代1428-21
TEL 0943-32-0281 FAX 0943-32-3556
URL <https://www.kic-car.ac.jp/>



久留米自動車学校

〒830-0052 福岡県久留米市上津町2192
TEL 0942-22-1236 FAX 0942-21-8715
URL <https://www.kurume-ds.jp/>



INDEX

特集1

03 久留米工業大学 新棟
(講義・研究棟、学生交流棟) 概要

特集2

05 『令和5年度大学・高専
機能強化支援事業』に
選定されました

特集3

06 久留米自動車工科大学校
WAKU WAKU
OPEN CAMPUS

07 新任担当理事挨拶&
News&Topics

09 夢に向かって頑張っている
女子学生・生徒インタビュー

10 学生団体・クラブ紹介

11 先輩訪問

13 KIT「ストーリーの、真ん中に。」
応援募金

14 法人の財務について

表紙のかお

デザイン集団「ASURA」

ASURAとはArchitecture・建築、Space・空間、Ultimate・究極、Redesign・再構築、Artistic・芸術性という意味と「阿修羅」という戦を挑み続ける神の名前、の2つの意味が込められています。自分自身のみならず従前の価値観にも挑み、戦い続け、ハイクオリティなものをつくり続ける集団を目指して活動しています。

各学校のビジョン

学校法人

「法人総合力の向上と
健全で安定的な経営の確立」

久留米工業大学

「学生一人ひとりが成長を実感できる」大学
「工学技術で地域に貢献する」大学
「新しい知と技術に向き合う」大学

祐誠高等学校

「特色ある教育」
「社会性を育む教育」
「学力の向上」

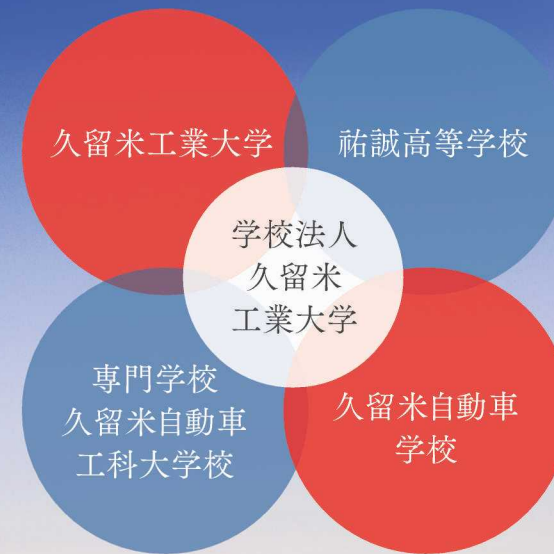
専門学校 久留米自動車工科大学校

「社会貢献できる自動車整備士の育成」
「高い安全意識を持った
建設機械等オペレーター」の育成
「持続可能な経営基盤の整備」

久留米自動車学校

「初心安全運転ドライバーの育成」
「地域連携、地域貢献の推進」
「収益事業の安定経営」

学校法人久留米工業大学組織図



建学の精神

人間味豊かな 産業人の育成



久留米工業大学 航空宇宙実習棟

- 昭和33年 学校法人久留米工業学園設立認可。
- 昭和34年 西日本高等学校開校。
- 昭和37年 久留米工業高等学校開校。
- 昭和39年 西日本高等学校を久留米高等専門学校に校名変更。久留米建設機械専門学校開校。
- 昭和41年 久留米工業学園短期大学開学。
- 昭和51年 学校法人久留米工業学園を学校法人久留米工業大学に名称変更。
- 久留米工業大学開学。
- 久留米工業高等学校を久留米工業大学附属高等学校に校名変更。
- 久留米建設機械専門学校の工業専門課程が専修学校として認可。
- 昭和54年 久留米高等専門学校を久留米自動車学校に校名変更。
- 昭和59年 久留米建設機械専門学校を久留米工業技術専門学校に校名変更。
- 平成7年 久留米工業大学大学院工学研究科を開設。
- 平成17年 久留米工業大学附属高等学校を祐誠高等学校に校名変更。
- 平成28年 久留米工業技術専門学校を専門学校久留米自動車工科大学校に校名変更。

学校法人 久留米工業大学の 沿革

新棟概要紹介

講義・研究棟

学生交流棟

concept 新棟のコンセプト・特徴

「人と建物を繋ぐ」
～多様な交流を促す～

◆ 機能と役割を明確化した特徴的な2棟構成

1 講義・研究棟：3階建、約1,800㎡

- ・鋸刃状の壁面が特徴
- ・学修機能に特化し、AI応用研究所、教室等を配置

2 学生交流棟：2階建、約620㎡

- ・特徴的な螺旋構造(バリアフリー)
- ・螺旋の外周にスロープ状の通路、内側にグループワークホール、図書館、カフェ(ブックカフェ)等を配置

◆ 学生交流棟を中心に既存施設と渡り廊下で接続
キャンパス内を移動する中で、交流を促す構造

学生交流棟を拡大したパース図です。
交流棟の右下側の入り口から入り、螺旋を描きながら、段階的に高さを増していく構造が分かります。

講義・研究棟：製図室のイメージ



「人と建物を繋ぐ」ことをコンセプトにした新棟は、次代に対応し、新たな学修機能を集約した「講義・研究棟」とキャンパス内の多様な交流を促す「学生交流棟」の2棟構成としています。

「講義・研究棟」は鋸刃状の西側壁面が特徴的な建物です。文部科学省認定の「地域課題解決型AI教育プログラム」推進の核となるAI応用研究所やPCを活用した製図室、AR・VR・プロジェクションマッピング等に対応した多目的活動室等の学修機能を配置します。

学生交流棟グループワークホール及び通路のイメージ



「学生交流棟」は「講義・研究棟」との間の渡り廊下と100号館・3号館につながる渡り廊下を設置した螺旋形状の建物です。通路をスロープにしたバリアフリー構造とし、学生のワークスペース、図書館とカフェを融合したブックカフェ等を配置します。

この2つの建物からなる新棟は「学生交流棟」を中心に、キャンパス内を移動する中で、自然と学生の交流が生まれるような開放的な施設とします。学生の皆さん一人一人のストーリー作りを応援する施設として、新棟建設を進めています。

学生交流棟1Fの構造です。
中心部分は吹き抜けとなっており、自然光を取り入れた水鏡を設置したピロティとなっています。



令和6年4月11日に新棟の起工式を執り行いました。施主代表の挨拶の中で、萩原重信理事長は「学生がより良い環境で学び、成長を実感できるように、将来を見据えた教育環境を提供し、本学の新たな魅力を創出する」施設として、新棟への期待を述べました。



工事現場を100号館9階から俯瞰したものです。(令和6年6月14日撮影)
令和6年3月から着工を開始し、令和7年3月に竣工する予定で工事が進んでいます。

新棟関連の最新情報はここから





在校生との体験実習

ディーラーによる説明

展示車両同乗体験

企業イベント

WAKU WAKU OPEN CAMPUS

7/28日・8/4日・18日・25日

企業による整備体験や、試乗イベントなどワクワクがいっぱい!!
まずは体験して自動車整備士の魅力を知ろう!

※詳細は決まり次第、ホームページやSNSでご案内します。

あの企業も
やってくる!?

限定企業コラボ

大人気イベント!
最新のスポーツカーや
貴重な車両の展示も開催!



GT-R
2023年実績

ポルシェ
Taycan GTS
2023年実績

ランドローバー
2023年実績

整備体験や、レア車両展示、同乗イベントなどが
楽しめる特別なオープンキャンパス!

『令和5年度大学・高専機能強化支援事業』に 選定されました

久留米工業大学では、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構が公募した「令和5年度大学・高専機能強化支援事業」において、『学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援(支援1)』、『高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援(支援2)』に申請を行い、いずれも選定されました。
支援1、支援2の両方に採択された大学は、全国でも7大学(公立3件、私立4件)で、九州では唯一です。

本学の取組

AI・データ分析 × well-being 工学による地域 DX 人材の育成
人生100年時代の地域社会課題の発見・解決に取組み、地域の人々が多様な幸せ(well-being)を享受する社会を実現

情報ネットワーク工学科の取組み

データ分析の基礎的素養を学修する科目群
DX推進に必要なビッグデータ分析力とAI実装力・応用技能を修得

産学連携 PBL
地域課題解決型教育

コミュニケーションのスキルを学修する科目群
課題発見力、コミュニケーション力、リーダーシップ力、国際的視野

課題の発見から解決、表現、実装までの実践技術を修得するための体系的教育的カリキュラム

MDASH 修了証の発行 社会ニーズの高い実践的カリキュラム オープンバッジ・国際的通用性の向上

高大接続強化 <ul style="list-style-type: none"> 女子学生が多い商業系や実業系高校との高大接続 授業および科目等履修生制度 入試における優遇制度 課題発見・解決型高大接続入試の新設 PBL成果報告会の参加体験を踏まえた入学者選抜 高校から大学院までの9年一貫専門人材育成プログラムを検討 	多様な人々が集う価値共創の場 -メタバース・ラボ- <ul style="list-style-type: none"> 社会人と学生がともに課題解決に取組む PBLや協働研究のための実空間の設備 時・場所を選ばないバーチャル空間(メタバース・ラボ)の利用環境を整備・拡充し、教育・研究へ有効活用 メタバース・ラボを用いた海外バーチャル留学 	産業界・学外との連携 <ul style="list-style-type: none"> 実務家教員によるオムニバス講義「先端情報技術」 社会的ニーズや人材育成に関する意見を聴取する協力体制 経済産業省、策定「DX推進スキル標準」を踏まえた人材育成 地域高等教育機関に向けた AI・DS教育支援および連携 異分野大学と連携した課題解決型PBLによる地域貢献 	PBLを核とした地域課題解決型教育の自走・深化 <ul style="list-style-type: none"> 多様な分野における地域課題をAI技術で解決するPBL 地域課題解決型 AI教育プログラムの実績を活かした共同研究・受託研究への発展 寄付金オンライン取組サービスの導入や地域連携活動の強化による地元企業・卒業生からの寄付金・科研費申請 増加等による外部資金獲得強化
--	--	---	--

学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援(支援1)

情報ネットワーク工学科の入学定員の20名増(90→110)を行い、AI・データ分析×well-being工学による地域社会が抱える様々な課題の解決に貢献できる地域DX人材の育成にむけて、地域課題解決型AI教育プログラムを中心としたデータ分析の基礎的素養とコミュニケーションスキルを学修する科目群で構成するコースを新設します。

AI・データ分析・データサイエンス × 工学 による高度情報専門人材の育成
人生100年時代の地域社会課題の発見・解決、ビジネスや業務課題のDX化で挑み、地域の人々が多様な幸せ(well-being)を享受する社会を実現

AIやデータ分析(DA)の応用技術の修得
実務家教員による授業科目や AI・DAの応用で地域・企業のデータから課題を発見し、解決に挑む

地域課題解決型高度AI教育プログラム

企業・自治体等と連携したアクティブラーニング
地域のDX化、社会人リカレント教育を支援できる地域社会融合型の教育・研究を実施

課題の発見から解決、表現、実装までのデザイン思考を修得できる体系的教育的カリキュラム

独自のAI修了証の発行 産学連携による社会人大学院制度 オープンバッジ・国際的通用性の向上

継続的な高度情報専門人材の輩出 <ul style="list-style-type: none"> 学部生の大学院科目等履修制度 本学工学部のAI修了証を持つ学生や、高い難易度の情報技術系資格保持者を対象とした新たな入試制度の検討および大学院スカラーシップの導入 地域社会人リカレント教育支援・長期履修制度・夜間休日の講義対応体制 強化による社会人大学院生への対応 	地域と連携した研究活動活性化のための環境整備 <ul style="list-style-type: none"> 大学院生専用の研究室や大学院におけるPBL教育を円滑に進めるための実空間設備の充実 現実世界では試すことのできない実験・シミュレーション・可視化を可能にするメタバース・ラボ教育・教材の充実 修士論文研究指導に携わる教員の処遇・研究費等を考慮することによる大学院担当教員数の増加・更なる充実 	産業界と連携した有償・中長期インターンシップ <ul style="list-style-type: none"> 地域課題解決型PBLを通じて企業・自治体との連携体制を構築 久留米ICT組合や久留米工業大学地域連携推進協議会、九州経済産業局との連携により、地域密着の中長期の有償インターンシップ制度を創出 有償インターンシップ制度による大学院生の経済的支援と地域企業のDX化等の両立
---	--	--

高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援(支援2)

大学院電子情報システム工学専攻の入学定員を段階的に15名増(5→10→20)を行い、大学院における深化したPBL(Project Based Learning...問題解決型学習)の継続やメタバース・ラボを用いたシミュレーション等を通して、AIやデータ分析(DA)の応用技術の修得及び企業・自治体等と連携したアクティブラーニングによる高度情報専門人材の育成を行います。

「大学・高専機能強化支援事業」とは?

大学・高専機能強化支援事業は、デジタル化の急速な進展や世界的な脱炭素の潮流を背景に、デジタル、デジタル・グリーン等の成長分野をけん引する高度専門人材育成に意欲ある大学や高等専門学校が行う成長分野への転換、改革の取組みを促進するため、複数年にわたり支援が行われるものです。日本は諸外国と比べて理系学部の学位取得者の割合が低いことも本支援事業の創設の背景にあり、大学・高専が成長分野への学部転換などの改革を行うことを継続的に支援します。

新任担当理事挨拶

「グローバルな視点を持って

新しい知と技術に向き合う」



久留米工業大学
学長 日野 伸一

本年4月より、久留米工業大学の学長並びに担当理事に就任いたしました。微力ながら精一杯務めさせていただきますので、ご高配のほど、よろしくお願い申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、大学生活においても次第に従前の活気ある姿が戻ってきました。しかし、学生たちの日々の学習や生活面において、長く続いたコロナ禍の影響がまだ懸念されるため、これまでと同様に、学生一人ひとりに寄り添った修学指導や精神的、経済的な

面での支援に注力しなければならぬと思っております。

本学では、第3次中期計画(2022～2027年)の下、本学のあるべき姿として「学生一人ひとりが成長を実感できる教育を展開し、工学技術で持続可能な未来社会を描いて地域に貢献し、グローバルな視点を持って新しい知と技術に向き合う大学となる」ことをめざして日々取り組んでいます。その成果の一端として、昨年度、高度情報専門人材の育成等を図るための文部科学省「大学・高専機能強化支援事業」に、学部を対象とした支援1と大学院を対象とした支援2の両部門において、九州の私学では唯一、同時採択され、その取組みを現在推進中です。また、全学生必修の「地域課題解決型AI教育プログラム」を継続実施しています。AI技術と専門知識を応用して地域の自治体や企業と連携しながら地域社会の課題解決にあたるなど、新しい時代に対応できる人材育

成に取り組んでいます。

本学の学部5学科11コースおよび大学院の3専攻では、規模的には小さな組織ですが、それぞれ他学に見られないようなユニークな教育・研究に取り組みながら、着実な社会貢献、地域貢献の成果を上げています。

開学50周年記念として建設された100号館(テクノみらい館)に続き、教育環境のさらなる充実を図るため、2025年度からの供用開始を予定して、新棟2棟が現在建設中です。次代に対応した新たな学修機能を集約した「講義・研究棟(仮称)」とキャンパス内の多様な交流を促す「学生交流棟(仮称)」は、既存の100号館や3号館と渡り廊下で直結され、学生一人ひとりのストーリーづくりを応援する舞台となります。

本学は、福岡県南部の拠点工科大学として、今後、時代の要請に対応してより一層充実した教育研究を通しての人材育成と地域・社会貢献に努めてまいりますので、皆様のご支援、ご協力のほどをお願い申し上げます。

News&Topics



大 広川町教育委員会と教育の振興を目指して連携協定を締結しました

令和6年3月11日(月)に、地域における教育の振興を目指し、広川町教育委員会と連携協定を締結しました。

広川町と本学は既に平成28年8月に連携協定を締結しており、地域産業の振興やまちづくりに取り組みんでいます。が、今回は教育分野に特化し、大学の研究成果の還元や大学の教員養成課程における実習機会の提供などの相互協力を通



高 全国選抜自転車競技大会、2種目で大会新記録優勝

位置互換、地域貢献など協力を行っていく予定です。

令和6年3月25日～28日に北九州市で開催された「令和5年度全国高等学校選抜自転車競技大会」に出場した自転車競技部2年生の鶴葵衣さん(広川中出身)が女子スプリントと500mタイムトライアルの2種目で大会新記録を出して優勝しました。

鶴さんは初の全国大会でしたが、日々の練習の成果を発揮し、500mタイムトライアルにおいては、前年度大会で更新された大会記録37秒157をさらに更新し、36秒699の大会新記録で優勝しました。女子スプリントでは予選の200mタイムトライアルで、こちらも前年度大会で更新された大会記録12秒355をさらに更新し、12秒098の大会新記録を出し予選1位で本選に進みました。スプリントとは、2名の競技者が笛の合図とともにスタートし、先着したものを勝者とするレースで、フルパワーを発揮して疾走するシーンは迫力十分です。鶴さんは本選においても落ち着いた走りを見せ、1/2決勝、1～2位決定戦においても相手に一本も取らせない走りで見事な優勝を決めました。



大 九州大谷短期大学と教育の振興を目指して連携協定を締結しました

令和6年5月24日(金)に、包括的な連携のもと相互の更なる発展を目指し、九州大谷短期大学と連携協定を締結しました。

教育、研究を中心に幅広く連携を図り、教育研究活動の充実、人物の育成、地域社会の発展に寄与するものです。

今後学生の教育及び研究、教員の研究交流及び共同研究、カリキュラム教材の共同開発単



大 戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)に採択されました

これまで以上に地域と連携していくことで、地域に学び、地域に貢献できる人材を輩出できるように、学生の様々な活動の場を教育の場として活かしながら、より充実したキャリアデザインにつながるような取り組みを展開していきます。

本学は、総合科学技術・イノベーション会議(議長:内閣総理大臣)が推進する国家的プロジェクトであるSIP(戦略的イノベーション創造プログラム:Strategic Innovation Promotion Program)の「包摂的コミュニティプラットフォームの構築に

「移動の課題を克服し高齢者や障がい者の自律を促進する外出支援サービスの開発」を研究テーマとして採択されました。(研究期間:令和5年度～令和9年度)

SIPとは「総合科学技術・イノベーション会議(CSTIR)」が社会的課題の解決や日本経済・産業競争力にとって重要な課題を設定し、そのプログラムディレクター(PD)・予算配分をトップダウンで決定、基礎研究から社会実装までを見据えた国家的、一気通貫で研究開発を推進する国家的プロジェクトです。

大 「産学連携DX推進フォーラムin久留米」が本学で開催されました

令和6年2月22日(木)に「産学連携DX推進フォーラムin久留米」が、経済産

大 本学のデザイン集団「ASURA」が「学生が選ぶキャリアデザインプログラムアワード」で「地方創生賞」受賞!



本学の建築・設備工学科のデザイン集団「ASURA」が、「学生が選ぶキャリアデザインプログラムアワード」において、1,013法人、1,115プログラムの中から、「地方創生賞」受賞の快挙を達成しました。

同アワードは、学生の社会的・職業的自立に貢献したインターシップやキャリア形成支援に係る取り組みを表彰するものです。

ASURAは、2017年に前身組織が立ち上がり、2018年に正式に発足して一貫して、指導・育成に携わって来られた本学建築・設備工学科の成田聖准教授は、今回の受賞について「学生、大学、そして地域のメリットを同時に強く考えるプロジェクトを検討し推進したことが結果につながったと思います。」と語られました。今回の受賞を契機として、本学では、





学生団体・ クラブ紹介



チーム全体で切磋琢磨できる環境づくりと、応援しあえるチームづくりを大切にしている祐誠高校陸上競技部です。

祐誠高校陸上競技部は、長年に渡り原田監督の指導のもと、数々の成績をあげてきました。平成4年に男子円盤投ではじめてインターハイに出場し、令和4年までに全国大会出場135名、全国大会入賞者27名を輩出しました。また団体の部において、福岡県大会総合の部優勝・北九州大会フィールドの部優勝・インターハイ男子総合準優勝・インターハイ男子フィールドの部優勝などの成績をあげています。

令和5年度から園田監督の指導のもと、新たな祐誠高校陸上競技部として活動をしていきますが、これまでと変わらず『己に克つ』をスローガンに、インターハイ入賞を目標に日々練習に取り組んでいます。『己に克つ』の言葉には、試合の勝敗だけにとられず、日々の生活や練習を通して、自分の弱さに打ち勝つことで、『強い自分を作る(自信をつける)』という意味が込めら

れています。陸上競技は個人競技である為、試合でスタートラインに立てば誰も助けてくれず、頼りになるのは自分自身の心です。選手が自信をもってスタートラインに立つことができたことで、最高のパフォーマンスを発揮でき、結果的に勝負に勝つことへ繋がります。また、個人競技だからこそ日頃の練習から、仲間と声を掛け合い、チーム全体で切磋琢磨できる環境づくりと、応援しあえるチームづくりを大切にしている祐誠高校陸上競技部です。



夢に向かって
頑張っている

interview 女子学生・生徒インタビュー



夢に向かって日々頑張っています。

私の将来の夢は、中学校の数学教師になることです。多くの資格取得や少人数での教育を通して、数学と様々な角度から向き合いたいと思い、久留米工業大学へ進学しました。教育創造工学科では、数学と理科の基礎となる部分から学びなおすことができ、幅広い分野の知識を深められるところが魅力です。少人数ですが学年の壁を越えて、夢に向かって日々頑張っています。また、私は「輪導」というボランティアサークルの代表として久留米市の安全と笑顔を作るための活動に取り組んでいます。部員たちにも楽しんで活動してもらえるように、積極的にコミュニケーションを取りながら、チームワークを高めつつ将来の夢の実現に重要なスキルをサークル活動を通して身に付けています。加えて現在は、学習塾での指導から実際に生徒に教えることが自分自身の本当にしたいことだと実感することができました。今後も自分自身のスキルを磨き、多くの生徒の興味を引き、関心を高めることのできる教師を目指します。



久留米工業大学
教育創造工学科 2年
中村 妃美希 さん
(厳木高等学校出身)

interview 1

世界で活躍する人になりたい!

私はものづくりに興味があり、資格がたくさん取得できる祐誠高校機械科へ入学を決め、将来の就職に活かすことを目標にがんばっています。当初、女子は2、3人くらい居るかなあと思い楽しみにしていましたが、まさか私1人とは思わず、不安と困惑でいっぱいでした。しかし、目標にしていた事を思い出し、機械実務研究部に入部しました。部活を通して友達もたくさん作ることができ、またクラスメートともしだいに話せるようになり、今では毎日楽しい日々を送っています。学年ごとに1人ずつ女子生徒がいたので、声をかけて、昼休みには一緒に昼食をとることで、学校生活がますます楽しくなってきました。現在は、国家資格の3級機械検査技能士やガス溶接技能講習などを取得しました。高校生活の中で新たな目標ができ、今後は語学を学んで海外に行き、文化を知り、様々な国の人とコミュニケーションをとって、世界で活躍する女性になりたいと思っています。



祐誠高等学校
機械科 3年
七尾 海月 さん
(白光中学校出身)

interview 2

女性だということは、 プラスになると思う。

祖父が整備士だったというのがあるんですが、いつの間にかクルマが好きになっていて、中学の頃には将来はクルマの道に進もうと決めていました。でも、女の人の整備士ってないよね、どう思われるかな、好きだけじゃやっていけないのかなとか思って、Webでずっと情報を探していたら見つけてしまったんです。アメ車に乗っているすごく素敵な女性整備士さんを。その出会いに、自分も整備士になっていいんだと背中を押された感じです。今、就職活動の真っ最中で、ディーラーに会社訪問をすると、ディーラーの方は女性は仕事の繊細さが素晴らしいから女性を採用したいと言ってくれるんです。整備士をめざすのに、女性ということはかなりプラスなのかなと感じています。



専門学校 久留米自動車工科大学校
車体整備工学科 3年
泉 彩奈 さん
(長崎工業高等学校出身)

interview 3

先輩・卒業生に聞きました!

現在活躍中の

先輩・卒業生

先輩・卒業生から大学進学や就職先

などについてインタビューしました。

「日本郵政株式会社 施設部を目指したきっかけ」



PROFILE
日本郵政株式会社
施設部
塩塚 哲太さん
久留米工業大学
建築・設備工学科
2023年度卒(南筑高校出身)

目指したきっかけは、大学で行われた説明会に参加し、全国各地にある郵便局の新築や維持管理など、建物を通して地域に貢献していきたいと思いこの会社を志望しました。就職活動では、就職課へ何度も足を運んだことで「日本郵政株式会社」施設部という企業を知ることができ、自身が思い描いていた第一志望の企業へ就職することができたと思います。就職活動は、早く行動することで様々な企業について知ることが

できると共に、自分を見つめなおすきっかけになります。そして、今年の7月から日本郵政株式会社施設部は事業継承を行い、「日本郵政建築株式会社」へ変わります。私も新会社で頑張っていきたいので、これから頑張っていきたいと思います。



PROFILE
アバナード株式会社
(Avanade Japan K.K.)
Azure Platform/Analyst
乗越 浩大さん
久留米工業大学
情報ネットワーク工学科
2023年度卒(大星高校出身)

「メリハリが一番大事」



私がアバナード株式会社に入社したきっかけは、優秀なエンジニアになるためです。弊社は、MicrosoftとAccentureの合併企業であり、それらの技術や知見を活用し、サービスの提供を行っています。その中で、優秀なメンバーと働き、エンジニアとして成長したいと考え、入社しました。現在は、トレーニング(研修)を多国籍のメンバーと共に、刺激を受けながら取り組んでいます。就職活動における面接では、矛盾点を無くすことを意識しました。細かい点を限界まで詰めることが重要だと考えます。学生の皆さんは、努力することも大事ですが、思いつき遊びことも経験してほしいです。きっとその経験が将来役に立ちます。メリハリが一番ということですね。最後に、在学中に私を支えてくれた全ての皆様、ありがとうございます。

「今しかできないこと、今だからできることの大切さ」



PROFILE
日本製鉄株式会社
東日本製鉄所
早野 輝さん
祐誠高等学校
情報技術科
2023年度卒(甘木中出身)

私は日本製鉄株式会社東日本製鉄所に就職し、現在は君津地区で仕事を頑張っています。入社後の研修では、座禅やドッジボールなどもあり、先輩方や同僚とコミュニケーションを取る場面が多くあり、一緒に働く仲間作りができました。また、当社は危険な場所や作業もあるので安全に関する講義が何度も行われています。その中で一日のスケジュールを計画的に考える事が安全の第一歩であるこ

とを学びました。今ではそれが生活する上でも必要不可欠な事であり、自分のことだけでなく、一緒に働く仲間や会社全体のことを考えることができるようになっていきました。

高校生活では、3年間バレー部に所属し、文武両道に努めました。隙間時間を有効活用し勉強に励み、日々の生活では服装など身だしなみに気をつけました。また就職活動に向けて、多くの資格取得や講習にも励みました。部活動と勉強の両立がうまくいかないとときもあり、悩んだこともありましたが、部活動の仲間やクラスメイト、先生方のサポートで、3年間頑張ってきたからこそ今の自分があると思っています。

今しかできないこと、今だからできることの大切さを学んだ高校3年間を、これからも生かして頑張ります!

「感謝の三年間」



PROFILE
熊本大学
薬学部薬学科
入部 綾巴さん
祐誠高等学校
普通科特別選抜コース
2023年度卒(八女市立西中出身)

私が志望大学に合格できたのは、先生方やクラスメイトの支えのもと、受験直前まで諦めずに自分のやるべきことに取り組んだからだと思っています。高校に入学したころは、将来についてぼんやりとしか考えていませんでした。学校生活を続ける中で先生方のアドバイスを受ける機会もあり、将来自分が何をしたいのか真剣に考えて、志望大学や学部を決めることができました。徐々に受験本番に近づいていくにつれて不安を感じることもありましたが、模試の

結果を受け止めて次にどう活かしていくかを考え、日々の学習に反映させるといったのを繰り返すことで合格に二歩ずつ近づけたと思っています。学校生活の中で、先生方に手厚い授業や個別での指導をしていただいたり、受験期の息抜きとしてクラスメイトと笑顔で話した時間は有意義なものでした。家庭では家族に支えられ、周りの方々に本当に感謝しています。三年間のクラスで行事を楽しんだり、受験に向けて頑張ることができて良かったです。本当にありがとうございました。

シヨン能力なども含めて、トータル的に整備士としてのスキルで負けたくないと思っています。そのためには、とにかく挑戦すること。たくさん挑戦して成功や失敗から学んでいって、みんなから信頼される人になりたいです。

「いろいろ挑戦していったら」

男性に負けない整備士になる。」



PROFILE
福岡トヨベツ株式会社
吉村 真珀さん
久留米自動車工科大学校
二級自動車工学科
2023年度卒(冠馬高校出身)

進路を決める時は、結構ギリギリまで迷っていました。二級自動車工学科を卒業して関東で就職するか、福岡で就職するか、それとも一級自動車工学科に進むか。クルマが好きで、ずっと整備の仕事で続けていきたいから悩むという感じだったのですが、先生方に相談して福岡本社のディーラーに内定をいただくことができました。私は男性に負けない整備士をめざして、整備技術はもちろん、お客様対応やコミュニケーション

法人の財務について

令和5年度資金収支計算書

(単位:千円)

科目	予算	決算	差異
学生生徒納付金収入	2,390,525	2,382,226	8,299
手数料収入	43,080	35,418	7,662
寄付金収入	8,578	12,707	△ 4,129
補助金等収入	1,002,372	891,375	110,997
資産売却収入	0	0	0
付随事業・収益事業収入	85,441	143,225	△ 57,784
受取利息・配当金収入	107,503	105,414	2,089
雑収入	237,186	253,315	△ 16,129
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	416,579	350,974	65,605
その他の収入	1,348,461	724,968	623,493
資金収入調整勘定	△ 589,016	△ 580,944	△ 8,072
前年度繰越支払資金	1,144,305	1,144,305	0
収入の部合計	6,195,014	5,462,983	732,031
人件費支出	2,276,663	2,295,673	△ 19,010
教育研究経費支出	909,678	864,969	44,709
管理経費支出	304,356	302,569	1,787
借入金等利息支出	5,118	5,117	1
借入金等返済支出	113,330	113,330	0
施設関係支出	702,436	359,098	343,338
設備関係支出	337,508	300,331	37,177
資産運用支出	529,203	548,396	△ 19,193
その他の支出	291,995	302,033	△ 10,038
予備費	13,000		13,000
資金支出調整勘定	△ 354,473	△ 890,802	536,329
翌年度繰越支払資金	1,066,201	1,262,269	△ 196,068
支出の部計	6,195,015	5,462,983	732,032

令和5年度事業活動収支計算書

(単位:千円)

科目	予算	決算	差異
学生生徒納付金	2,390,525	2,382,226	8,299
手数料	43,080	35,418	7,662
寄付金	8,578	12,707	△ 4,129
経常費等補助金	998,037	887,049	110,988
付随事業収入	78,441	143,225	△ 64,784
雑収入	237,186	253,315	△ 16,129
教育活動収入計	3,755,847	3,713,941	41,906
人件費	2,243,163	2,261,616	△ 18,453
教育研究経費	1,251,678	1,205,016	46,662
管理経費	337,761	336,203	1,558
徴収不能額等	166	578	△ 412
教育活動支出計	3,832,768	3,803,412	29,356
教育活動収支差額	△ 76,921	△ 89,471	12,550
受取利息・配当金	107,503	105,414	2,089
その他の教育活動外収入	7,000	0	7,000
教育活動外収入計	114,503	105,414	9,089
借入金等利息	5,118	5,117	1
その他の教育活動外支出	0	0	0
教育活動外支出計	5,118	5,117	1
教育活動外収支差額	109,385	100,297	9,088
経常収支差額	32,464	10,826	21,638
資産売却差額	0	0	0
その他の特別収入	16,835	26,229	△ 9,394
特別収入計	16,835	26,229	△ 9,394
資産処分差額	20,832	17,435	3,397
その他の特別支出	195	195	0
特別支出計	21,027	17,630	3,397
特別収支差額	△ 4,192	8,599	△ 12,791
予備費	13,000		13,000
基本金組入前当年度収支差額	15,273	19,425	△ 4,152
基本金組入額合計	△ 568,600	△ 371,661	△ 196,939
当年度収支差額	△ 553,328	△ 352,237	△ 201,091
前年度繰越収支差額	△ 206,098	△ 206,097	△ 1
基本金取崩額	0	455	△ 455
翌年度繰越収支差額	△ 759,426	△ 557,878	△ 201,548

- 事業活動収支において19,425千円の収入超過となりました。
- 基本金組入額を、371,661千円計上しました。
- 資金収支計算書は、資金の状況とその年度に行った諸活動に伴う資金の動きを管理することを目的としています。
- 事業活動収支計算書は、その年度の諸活動に伴う全ての収入と支出の内容とバランスを「教育活動」「教育活動外」「特別」の3つに分け経営状況を示すことを目的としています。
- 学校法人会計の特徴と企業会計との違い

学校法人は、教育研究活動により社会に有為な人材を育成することを目的とし、その収入の多くは学生生徒からの納付金や国や地方公共団体などからの補助金で構成されている極めて公共性の高い公益法人であり、企業のように利益の獲得を目的としないため、損益の計算をすることはありません。学校法人会計の目的は、収支の均衡の状況と財政の状態を正しくとらえ、法人の永続的発展に役立てようとすることにあり、その目的を達成するため、計算書類(資金収支計算書、活動区分資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表)等を作成することになっています。

一方、企業会計は、会計によって主として収益と費用を正しくとらえて、営業年度の正しい損益を計算し、併せて企業の財政状態、すなわち資産、負債及び資本の状態を知ることによって、より収益力を高め、財政的安全性を図ることを目的としています。

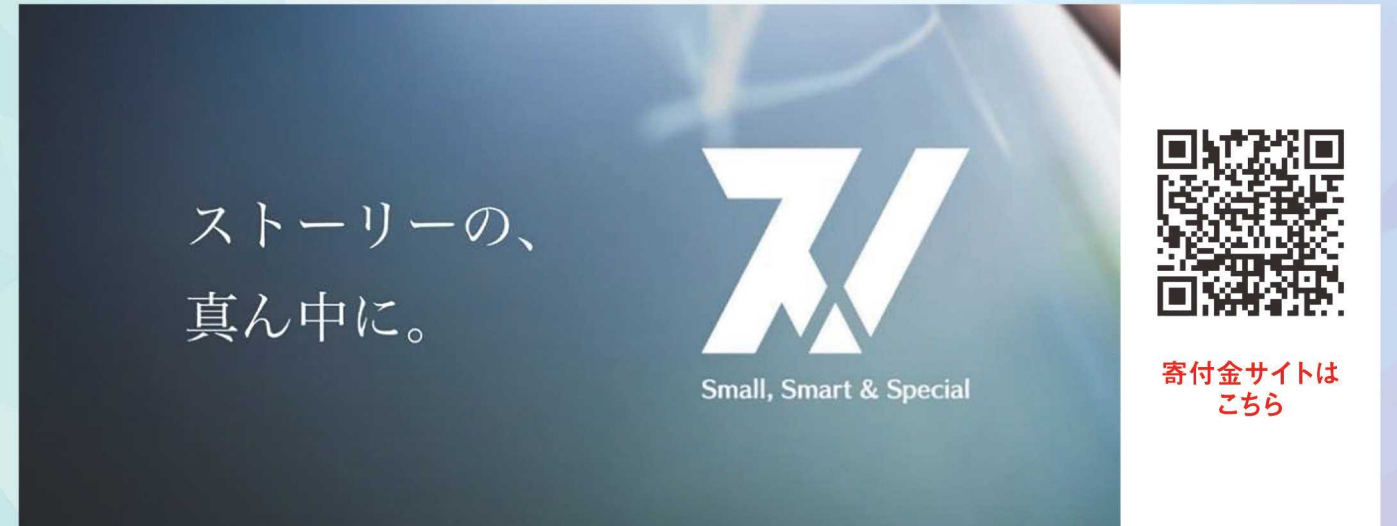
●学校法人久留米工業大学へのご支援について●

日頃より本法人のために、各方面からご支援をいただきありがとうございます。本法人の教育活動がさらに充実し、建学の精神「人間味豊かな産業人の育成」の理念達成のため、さらなるご支援をよろしくお願いいたします。なお、本法人は特定公益法人に認定されておりますので、税法上の優遇措置を受けることができます。寄付に関するお問い合わせは、法人本部財務課(0942-65-3485)までお願いいたします。令和5年度に本法人に対して寄付を賜りました方々のご芳名を掲載させていただきます。

【寄付金】 ◇最所産業株式会社様 200,000円 ◇株式会社永幸建設様 742,500円 ◇熊本高等専門学校様 1,441,705円 ◇株式会社九電工様 1,000,000円 ◇合資会社アオヤマ様 100,000円 ◇祐誠高等学校体育後援会様 3,498,000円 ◇ほか5,675,060円

【現物寄付】 ◇三菱重工株式会社様 スラストリバーサ風洞試験模型1台 ◇久留米工業大学後援会様 AED1台、ワンタッチテント2張、図書465冊 ◇祐誠高等学校野球部保護者会様 大型バス1台 ◇久工祐誠高等学校同窓会様 演台カバー1式 ◇祐誠高等学校後援会様 マリンバ1台、図書282冊 ◇ほか 21点

KIT「ストーリーの、真ん中に。」応援募金



久留米工業大学では、「すべての学生が、大勢のなかのひとりではなく、学生それぞれが『私の物語』をつくり、その中心で輝くことができる『ストーリーの、真ん中に。』を実現する」ための応援メニューを新たに加え、10万円未満のご寄付には、クレジット

カードやコンビニでの納付がいつでも可能な「KIT「ストーリーの、真ん中に。」応援募金」を、スタートしました。学生の皆さんへの温かいご支援、よろしくお願いたします。

※本学は「特定公益増進法人」の指定を受けており、ご寄付いただきました場合、税法上の寄付金控除を受けることができます。

◀▶ 新たな支援メニュー ▶▶

01 2024新棟整備支援



02 AIの時代をけん引する人材育成支援



03 女子学生キャリアデザイン支援



04 地域連携・ボランティア等活動支援



久留米工業大学
KURUME INSTITUTE OF TECHNOLOGY

〒830-0052 福岡県久留米市上津町2228-66
TEL:0942-22-2345(代表) FAX:0942-21-8770



大学HPはこちら